

# 東アジア文化都市

## 文化を通じて3都市が交流する大型事業



「東アジア文化都市」事業は、2012年5月に行われた第4回日中韓

文化大臣会合（上海にて開催）での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、その国の伝統文化を代表する文化都市または文化芸術による発展を目指す都市を1～2か所選定し、その都市において、様々な文化芸術イベント等を実施するとともに、3都市を行き来しながら文化交流行事を実施する事業である。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指している。先行事例として、ヨーロッパ連合（EU）とASEANが1985年と2008年からそれぞれ実施している「欧州文化都市」事業と「ASEAN文化都市」事業がある。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としている。この観点から、3都市は、その年以降も日中韓文化交流や青少年交流を継続してきた。また、各国が過去の東アジア文化都市との交流強化や、欧州文化首都やASEAN文化都市との連携にも力を入れている。



日中韓都市間のトライアングル交流は、東アジア文化都市のフォローアップ事業が順調に継続する場合、毎年一つずつ交流都市のトライアングルが増加していくため、日中韓三国の民間の相互理解の増進にとって貴重なレガシーとなっていくことが期待される。

### これまでの「東アジア文化都市」

選定年度	日本	中国	韓国
2014年	横浜市*	泉州市	光州広域市
2015年	新潟市	青島市*	清州市
2016年	奈良市	寧波市	済州特別自治道*
2017年	京都市*	長沙市	大邱広域市
2018年	金沢市	ハルビン市*	釜山広域市
2019年	東京都豊島区	西安市	仁川広域市*
2020年	北九州市*	揚州市	順천시
2021年	北九州市*	紹興市・敦煌市	順천시
2022年	大分県	温州市・済南市*	慶州市
2023年	未定	未定	全州市

\* 日中韓文化大臣会合開催地



東アジア文化都市2022の4地域のロゴ

#### 資料提供

上から中国温州市・済南市、韓国慶州市、日本・大分県

▶  
第12回日中韓文化大臣会合

出典  
日中韓三国協力事務局



**東アジア文化都市、2014年以降日中韓文化大臣会合の開催地に**

日中韓文化大臣会合は、3国が文化協力と交流に関して話し合うために、毎年持ち回りで開催されている大臣レベルの政府間会議である。文化分野の重要性の認識を共有し、共同事業を推進してきた。「東アジア文化都市2014」の事業を機に、開催国の該当年度の文化都市で開催されてきた。毎年大臣会合と連携し、次年度の東アジア文化都市選定式が開催される。

2021年第12回日中韓文化大臣会合は2021東アジア文化都市である北九州市でオンライン形式で開催され、次回の会合は2022年に中国で開催される予定。

**2014年以降の開催実績**

回	日程	開催地	共同文章
第6回	2014年11月29日	横浜市	「横浜共同声明」
第7回	2015年12月19～20日	青島市	「青島行動プラン」
第8回	2016年8月27～28日	濟州特別自治道	「2016濟州宣言」
第9回	2017年8月25～26日	京都市	「京都宣言」
第10回	2018年8月29～31日	ハルビン市	「ハルビン行動計画」
第11回	2019年8月30日	仁川広域市	「仁川宣言」
第12回	2021年8月30日	北九州市（オンライン開催）	「北九州宣言」

▶  
第12回日中韓文化大臣会合  
「北九州宣言」発表式

出典  
文化庁



## 2016年12月：寧波市主催「東アジア文化都市円卓会議」

2016年12月7日、寧波市は、東アジア文化都市閉幕式に合わせ、「東アジア文化都市円卓会議」を開催した。同年の東アジア文化都市である濟州特別自治道と奈良市をはじめとし、中国文化部（当時）、泉州市（2014年）、青島市（2015年）、長沙市（2017年）、光州広域市（2014年）、清州市（2015年）、大邱広域市（2017年）といった歴代の東アジア文化都市の代表が参加した。各都市の代表は、「東アジア文化都市事業が都市発展促進に果たした役割と、東アジア文化都市の交流・協力の強化策」をテーマに発表を行い、「東アジア文化都市寧波提議」に署名した。また2014年から2017年の12の東アジア文化都市の名前を日本語、中国語、韓国語で刻んだ「東アジア文化都市友好碑」除幕式が同時に開催された。



「東アジア文化都市円卓会議」

写真提供  
寧波市



「東アジア文化都市友好碑」  
除幕式

写真提供  
寧波市

## 2017年8月：京都で「東アジア文化都市サミット」開催

2017年8月26日、東アジア文化都市2017の京都市が主催、文化庁が支援をした同行事が国立京都国際会館で開催された。2014年から2018年の東アジア文化都市とASEAN文化都市などから19人の代表者が集まり、各都市の文化都市活動の成果を共有し、東アジア文化都市事業の発展について議論した。同行事で採択された「東アジア文化都市サミット京都宣言」では、以下の点が盛り込まれた。

1. 若い世代の交流に継続して取り組むとともに、市民、団体、企業などによる幅広い交流の機会を創出する。
2. 東アジア文化都市のネットワーク強化や事業充実にむけた方策を議論する有識者会議に参画し、事業の発展に貢献する。
3. 文化を通じた幅広い交流の促進と連携強化、ASEAN文化都市との連携を視野に入れた更なる発展に向け、今後も「東アジア文化都市サミット」を開催する。

参加国	参加した文化都市・地域（選定年度）・ASEAN
日本	横浜市(2014)、新潟市(2015)、奈良市(2016)、京都市(2017、主催都市)、金沢市(2018)
中国	泉州市(2014)、青島市(2015)、寧波市(2016)、長沙市(2017)、ハルビン市(2018)
韓国	光州広域市(2014)、清州市(2015)、済州特別自治道(2016)、大邱広域市(2017)、釜山広域市(2018)
ASEAN	フィリピン、シンガポール、ベトナム、ブルネイ

▶  
東アジア文化都市サミット

写真提供  
京都市





## 2019年10月：中国・揚州市で「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式開催

2019年10月25日、中国揚州市にて、「ASEAN+3 (APT)文化都市ネットワーク発足式」が開催された。同行事は、中国文化観光部が主催の下、日中韓の東アジア文化都市、ASEAN文化都市代表団、各国の関係者約200人が参加し、APT文化都市ネットワークの発足が宣言され、同宣言文において、①相互理解と信頼の向上、②文化交流事業の促進、③観光業界の協力の強化、④青少年交流の推進について合意された。



◀ 「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式記念集合写真

出典  
日中韓三国協力事務局

## 2019年：東アジア文化都市事業発展のため、各国の文化都市の間で連帯強化の取り組み

### 中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

2019年8月13日から14日にかけて、東アジア文化都市2019の中国西安市で初めての中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」が開催された。同プログラムは中国の文化観光部が主催した。2014年から2019年の中国の歴代文化都市と2020年に選定された揚州市、東アジア文化都市2019である日本東京都豊島区と韓国仁川広域市の代表団、文化省庁の関係者及び専門家等の約100人が出席した。このプログラムを通じて、歴代の東アジア文化都市は事業運営の経験と今後の事業計画を共有した。また、「東アジア文化都市の申請、審査、選定と管理の実施方法」、「東アジア文化都市の申請条件と評価基準」など東アジア文化都市のブランド発展のための提案についても専門家から発表された。



◀ 中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

写真提供  
中国文化観光部

## 韓国「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」

韓国の初代東アジア文化都市である光州広域市の（社）アジア文化センター都市造成支援フォーラムは、2019年12月10から11日にかけて、「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」を開催した。同ワークショップは、韓国の歴代東アジア文化都市の実務者が緊密なコミュニケーションと協力を通じて交流事業の向上を図り、3国で生じた環境の変化に対する文化都市の協力を議論するために2019年に初めて開催された。光州広域市の他、韓国の4地域（清州市、済州特別自治道、釜山広域市、順천시）、日中韓三国協力事務局など関係機関から15人が参加した。

▶  
2019年度東アジア文化都市  
協力ワークショップ

出典  
日中韓三国協力事務局



## 2021年：新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、東アジア文化都市のブランド力を向上させ、都市間交流を強力に推進して行くための持続的な努力を拡大

文化庁・同志社大学共同研究シンポジウム「東アジア文化都市の到達点と今後の課題」開催

▶  
文化庁・同志社大学共同研究シン  
ポジウムの広報ポスター

出典  
同志社大学



2021年2月22日、日本文化庁と同志社大学は「東アジア文化都市の到達点と今後の課題」をテーマにシンポジウムを開催した。本シンポジウムは東アジア文化都市事業の意義と成果を再確認し、今後の発展を議論するために文化庁と同志社大学が共同で実施した共同研究プロジェクト「東アジア文化都市に係る成果と今後の在り方に関する調査研究」の総括として行われたイベントである。シンポジウムは主催側の挨拶に続けて日本の歴代の東アジア文化都市が交代で発表し、約3時間にわたり行われた。

### 中国ハルビン「東アジア文化都市」建設都市フォーラム開催

2021年7月20日、都市ブランド祝典イベント及び「東アジア文化都市」建設都市フォーラムが中国ハルビン市で開催された。中国泉州・寧波・長沙・西安・揚州・紹興・敦煌・濟南・温州など歴代の中国側東アジア文化都市代表団約60数人が当行事に参加し、東アジア文化都市の未来志向的な発展について議論した。各都市の代表は本行事が都市文化の体系的な発展と都市発展のための推進力を高め都市イメージの改善において重要な役割を果たすと評価し、文化遺産保護、公共文化サービスの向上、文化産業・観光業の発展等における各都市の成功事例を共有した。



都市ブランド祝典イベント及び「東アジア文化都市」建設都市フォーラム

出典  
ハルビン市

### 北九州市第2回東アジア文化都市サミット開催

2021年10月25日、北九州市で第2回東アジア文化都市サミットを開催した。本サミットは「東アジア文化都市を通じた新たな文化価値創出」をテーマとし、日中韓文化都市・欧州文化首都・ASEAN文化都市など28都市の代表がオン・オフライン形式で参加した。参加者は「ポストコロナ時代の技術革新とデジタル化を通じた都市文化交流増進」、「都市の持続可能な発展における文化芸術の役割」などについて意見交換を行った。主催側の北九州市の代表を含め、2021年東アジア文化都市である韓国順天市、中国紹興市・敦煌市の代表が都市交流及び文化交流を通じた相互学習にをテーマに発表を行った。



第2回東アジア文化都市サミット

写真提供  
文化庁